

青山学院大学卒業生教職員
校友「白亜の会」教員採用試験対策講座

2023年度第4回 全体指導（論作文）

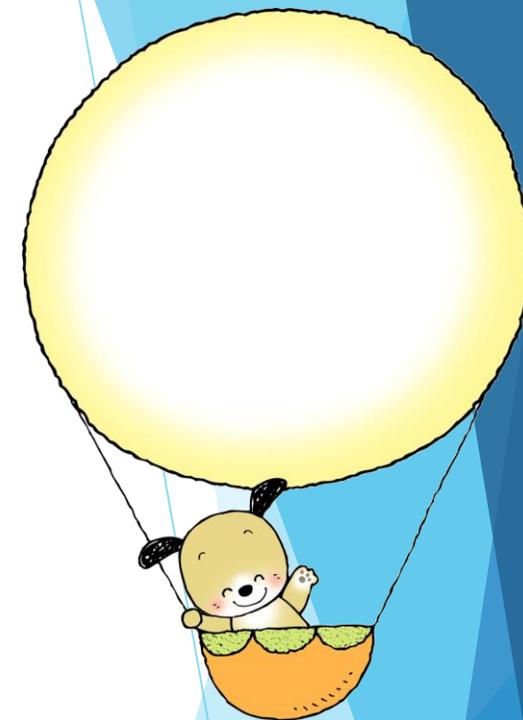
2023年5月27日（土）9時～

講師：木村 夏子

教員採用試験まで (7/9) まで

あと・・・

4 3 日



本日のプログラム

- 1 講義
 - 2 演習（小/中・高）
 - ・構想を練る
 - ・グループで情報交換
- 800字 60分
手書きに挑戦！

今日のメインは・・・
アウトプット！



令和4年度神奈川県公立学校教員採用 選考試験結果

	受験者数	最終合格者数	倍率
小学校	994名	475名	2.1倍
中学校	1007名	257名	3.9倍
高校	1690名	401名	4.2倍

「論作文」・・・その前に・・・

筆記試験の突破は**必須**！

- 一般教養
- 専門教養

クリアしないと始まらない！

ぬかりなく・・・

1 何のために
「論作文」試験を行うのか

• 論作文は「書く面接」

文章を通して
「教師としての適格性」を
判断しようとしている

育成すべき資質・能力の三つの柱

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

筆記試験や
実技試験

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

学んだことを人生や
社会に生かそうとする
学びに向かう力、
人間性など



実際の社会や
生活で生きて働く
知識及び技能

未知の状況にも
対応できる
思考力、判断力、
表現力など

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、
三つの力をバランスよく育みます。

過去
小学校
中学校
高等学校

現在
大学（学生）

教師になろうと
している

未来
社会人

- 論作文は「書く面接」

読み手

コミュニケーション

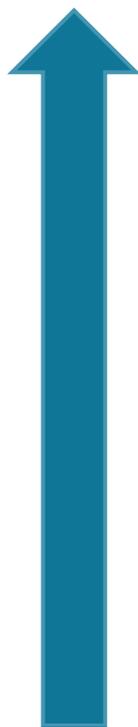
書き手

2 読み手

・読み手 = 出題者・採点者



・書き手 = 出題の意図を汲み
考えが伝わるような文章を書く



2 読み手

・読み手 = 出題者

国や各自治体の教育課題、施策

☆学習指導要領

☆教育施策（国レベル・県レベル・地域レベル）

☆受験する地方自治体（教育委員会）のホームページ

☆教育委員会の求める教師像

☆教育に関する報道

☆子供に関わるニュース

☆教員採用試験情報～過去問～

「教師」としての
「見方・考え方」で
とらえ直してみよう

2 読み手

・読み手 = 採点者

<構成力> 課題の意図を把握し、
題意に則した分析をしているか
論理的な主張になっているか

<創造力> 創造性、洞察力があるか
誠実さ、向上心等があるか
独断的でなく、社会への適応性をもっているか

<表現力> 具体的な分かりやすい内容で表現できているか
語句の使い方、表現が適切か
誤字等はないか

まず、「読んでいただける」ように
書くこと！！

最初から最後まで、
読み手が疑問をもつことなく、
すーっと流れるように
読むことができるか。

書き手としての「自分」を知ること・・・

あなたは「文章を書く」ことが好きですか。
「文字を書く」ことが好きですか。

☆「好きではない」「自信がない」人は・・・
・まず、「書き慣れる」こと。

☆「正しい記述」を意識する。
※表記便覧

土台となる
「国語力」

3 書き手

- 書き手 = 学生（教師経験はない）
- = 教師経験はないのに
「教師」として書く
- = 伝えられるのは・・・
「いまの自分」

3 書き手

- 書き手 = 「いまの自分」って？

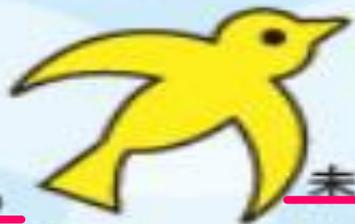
過去の自分（児童・生徒時のエピソード）

現在の自分（大学での学び・卒論の取組など）

＜教育現場での体験＞教育実習・ボランティアなど

未来に向かう自分（志）

学んだことを人生や
社会に生かそうとする
学びに向かう力、
人間性など



実際の社会や
生活で生きて働く
知識及び技能

未知の状況にも
対応できる
思考力、判断力、
表現力など

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、
三つの力をバランスよく育みます。

過去
小学校
中学校
高等学校

現在
大学（学生）

教師になろうと
している

未来
社会人

3. 伝える「自分」を明らかにしよう

☆理想の教師像「わたしのめざす教師像」

☆教育に関わる自分の体験

(教育実習・ボランティア活動・
生徒としての体験・思い出の学校行事
・部活やサークル活動・忘れられない恩師)

※事例に「見出し」を付けておくと、
どのような問題にもすぐに活用できる。

3. 求められる具体性

しかし、**字数には限り**がある

☆エピソード

- ・まず、できるだけ詳しく書いてみる。(5W1H)
- ・教育現場を思い描いて書く
 - 例) 毎日一人一人の児童に声を掛ける。
⇒毎日登校する児童を教室で迎え、
一人一人に挨拶+aの声掛けをする。
- ・全体の字数に合わせて、推敲する。

POINT !

「本論」をどのように展開するか。

- ① どのような「柱」(方策)を立てるか。
- ② その中で論・例・策が展開できることが望ましい。
- ③ 例・策の大きさに注意しよう。

POINT！

方策の中で論・例・策が展開できることが望ましい。

論：課題解決に向けた自分の考え

例：論をより説得力あるものにするための自分の経験など

策：課題解決のための具体的な実践

問題例：GIGAスクール構想を踏まえて、
ICT活用にどのように取り組むか。

引用：合格する論作文
(時事通信社)

序論：～1人1台という端末環境は、新たな時代のスタンダードである。私は、**情報活用能力の育成と、個別最適化された学びの実現**という2つの視点から、ICTの活用に取り組む。

方策（1）情報活用能力の育成

方策（2）個別最適化された学びの実現

結論：ICTは日々変化を遂げるが、教育を実践するのは教師である私自身である。ICT教育の推進に当たっても、子どもたちに寄り添い、分かる授業を行うという教師の本分を最優先に実践していく。

問題例：GIGAスクール構想を踏まえて、
ICT活用にどのように取り組むか。

引用：合格する論作文
(時事通信社)

方策（1）情報活用能力の育成

論：課題解決に向けた自分の考え

高度な情報社会を生きるためには、情報活用能力が求められる。

例：論をより説得力あるものにするための自分の経験など

(コロナ禍におけるオンライン授業では、
子どもたちの満足度は想像以上に高かった。)

策：課題解決のための具体的な実践

ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実践
(デジタル発表資料の作成・発表)

問題例：GIGAスクール構想を踏まえて、
ICT活用にどのように取り組むか。

引用：合格する論作文
(時事通信社)

方策（１）情報活用能力の育成

論：高度な情報社会を生きるためには、コンピュータなどで情報を得たり、整理・比較したり、得た情報を分かりやすく発信・共有したりする情報活用能力が求められる。

策：私は、ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実践をすることで情報活用能力を育成する。例えば国語では、グループで1つの和歌を選び、その情景や作者について調べ、和歌の意味を解釈させ、デジタル発表資料を作成して発表させる。子どもたちが主体となり情報をまとめることで、国語の知識を得るだけでなく、情報活用能力も得られるような授業を展開する。

問題例：学習意欲を向上させるために
どのように取り組むか。。

引用：論作文面接対策
(時事通信社)

序論：～学習意欲は学力を構成する3要素の1つであり、その向上には学習への興味・関心を引き出す指導が重要であると考えます。そのため、私は～

方策（1）興味・関心を高める指導

方策（2）主体的な学習を促す指導

結論：以上、学習意欲の向上について2観点から述べたが、児童生徒の実態を踏まえた授業の展開や学ぶ意欲を育むための働きかけを意図的・計画的に行うことも大切である。私は教師として、魅力ある授業を日々実践できるように自らの授業力を高める努力をしていく決意である。

問題例：学習意欲を向上させるために
どのように取り組むか。

引用：論作文面接対策
(時事通信社)

方策（１）興味・関心を高める指導

論：課題解決に向けた自分の考え

授業が分かる喜びは学習意欲の向上を密接な関係がある。～工夫のある魅力的な授業を行うことが重要である。

例：論をより説得力あるものにするための自分の経験など

小5の算数の授業で～マスからあふれるジュースを見て、どれだけこぼれたのか調べたくなった経験がある。

策：課題解決のための具体的な実践

この経験を生かして私は、具体物を使った体験や視覚から捉えさせる授業を行い、児童生徒に興味や関心を高める授業を行っていく。

4. 論作文試験の対策は・・・

☆書いてみる

☆書き直す

☆書き慣れる

「白亜の会」の添削講師がお手伝いします!

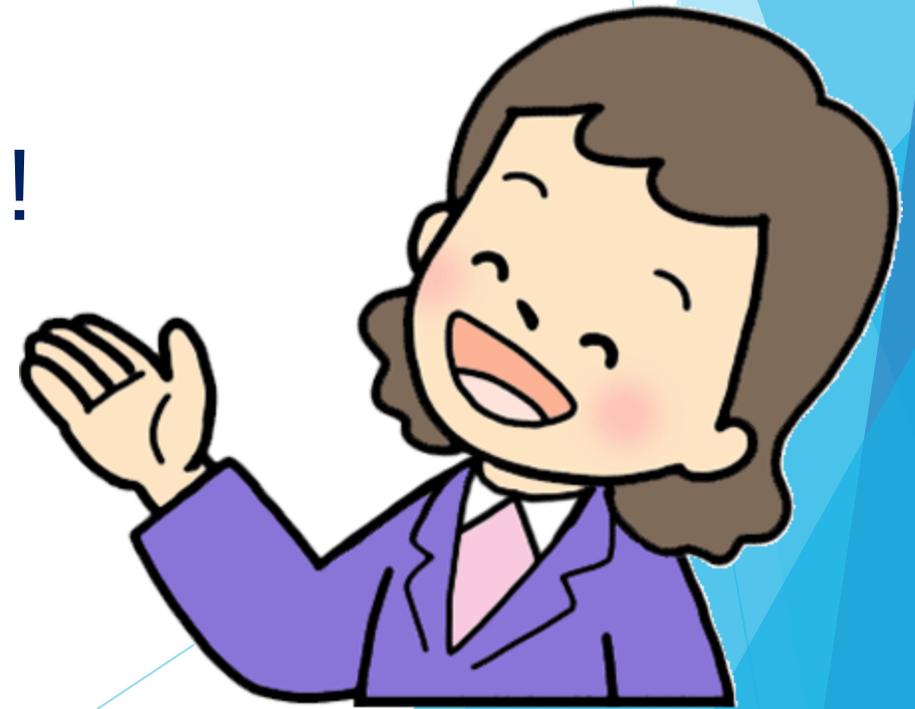
<配付物>

- ・ 問題用紙 ・ 回答用紙 ・ 問題例集 ・ 添削の手順

演習のプログラム

- ・ 構想を練る（個人）
- ・ グループで情報交換

○800字 60分 手書きに挑戦！



「論作文」問題例 1

学習指導要領では、これからの時代に必要となる資質・能力の育成のために「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす授業改善が求められています。このことが重視される背景を踏まえ、あなたはどのような教育実践を行おうと考えますか。志望する校種や教科等に即して具体的に述べなさい。(800字以内)

個人のワーク

- ・MEMO欄を活用して、構成を考えよう。(序論・本論・結論)
- ・授業改善の具体策を書いてみよう。(後ほどグループで交流)

主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業を改善します。

一つ一つの知識がつながり、
「わかった!」「おもしろい!」
と思える授業に



見通しをもって、
粘り強く取り組む力が
身に付く授業に



周りの人たちと共に考え、
学び、新しい発見や豊かな
発想が生まれる授業に

自分の学びを振り返り、
次の学びや生活に生かす力
を育む授業に

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」） の視点からの授業改善について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

【主体的な学び】の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。



主体的な学び
対話的な学び
深い学び

学びを人生や社会に
生かそうとする
学びに向かう力・
人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の
習得

未知の状況にも
対応できる
思考力・判断力・表現力
等の育成



【対話的な学び】の視点

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。



【深い学び】の視点

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

<添削指導を受ける手順>

①添削講師から、メールが届きます。

届かない場合は、白亜の会まで連絡してください。

(aoyama.hakua@gmail.com)

②研修生から添削講師に返信します。

まず、**自己紹介**をしましょう。

- ・学部・学科
- ・受験する自治体、校種、教科等
- ・教師を目指す理由なども伝えるとよい。

③**論作文をデータで送ります。**

手書きの原稿を、ワード等で打ち換え、データを送ります。

講師から「郵送」の希望がある場合があります。

<添削指導を受ける手順～その2>

- ④講師から、添削したものが返ってきます。
指摘事項を受けて「書き直す」と力が付きます。
- ⑤受験日までに、少なくとも3回は添削を受けましょう。
多様な問題例に挑戦すると「書き慣れ」で、自信がつきます。
- ⑥問題例は、
受験する自治体の過去問、
全体指導で取り上げた問題例（本日の配布資料）
などから、選んで書きます。

分からないときは、講師に相談して選びましょう。
そのほか、勉強の仕方についても相談に応じます！

★★「報告・連絡・相談」ほうれんそう★★

★即反応しよう ※一文でもよい。

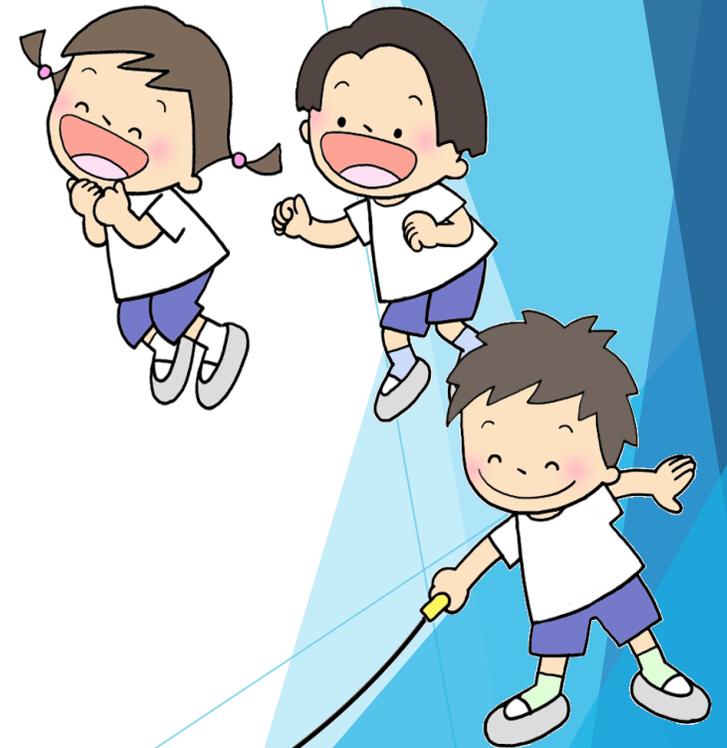
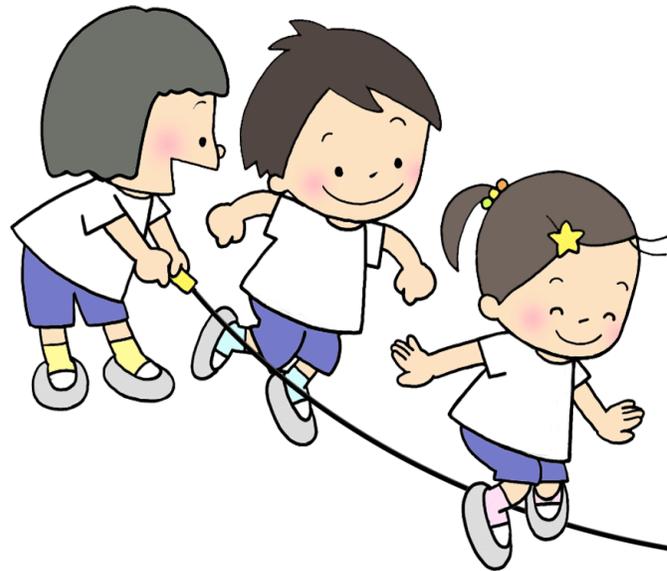
★現状・予定を連絡しよう

★質問しよう



添削講師の中には、
現職の先生方もいらっしゃいます。
ご多用の中添削指導をさせていただきます。

・・・感謝の気持ちを忘れずに。



ありがとうございました。